

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	藤本 英利子
論文担当者	主査 長谷川 誠紀
	副査 篠原 尚
	副査 辻村 亨
学位論文名	First-line chemotherapy with pemetrexed plus cisplatin for malignant peritoneal mesothelioma (悪性腹膜中皮腫に対するペメトレキセドとシスプラチンによる 初回化学療法の有効性の検討)
<p style="text-align: center;">論文審査の結果の要旨</p> <p>【研究目的】本研究の目的は、悪性腹膜中皮腫に対するペメトレキセド+シスプラチン併用初回化学療法の有効性を検討する事である。</p> <p>【研究対象と方法】組織学的に診断された悪性腹膜中皮腫 24 症例に対し、初回化学療法としてペメトレキセド+シスプラチン併用療法を施行。効果判定は RECIST-criteria 及び FDG-PET を用いたメタボリックレスポンス (MR) を用いた。有害事象は NCI、CTCAEv4. 03 に従って評価。</p> <p>【研究結果】24 症例 (年齢中央値 66 歳、32-76) のうち、上皮型は 22 症例、二相型が 2 症例、臨床学的分類は Dry-painful type ; 7 症例 (29. 2%)、Wet-type ; 7 症例 (29. 2%)、Combined type ; 10 症例 (41. 7%) であった。CR 症例は 2 例、PR 症例は 9 例、overall response rate : 45. 8%、disease control rate : 91. 7%。PFS 中央値は 11. 0 ヶ月 (95%CI, 10. 0~11. 9)、OS 中央値 15. 8 ヶ月 (95%CI, 14. 6~17. 0) であった。22 症例中 13 症例においては Metabolic response 評価を行い、CMR 症例は 3 例、PMR 症例は 6 例、SMD 症例は 2 例、PMD 症例は 2 例であった。毒性について治療関連死はなく、血液毒性は好中球減少と血小板減少、貧血を認めた。非血液毒性はおおむね軽度であった。</p> <p>【結論】                      腹膜中皮腫に対するペメトレキセドとシスプラチン併用の全身化療法が有効であることが明らかとなった。今後は、5 年生存率 50%以上とされる腫瘍減量切除術/術中腹腔内温熱化学療法 (CRS/HIPEC) との比較及び治療の組み合わせを検討する必要がある。</p> <p>申請者の上記学位論文内容について審査した結果、可と評価する。</p>	